NEWS LETTER

エジプト・アラブ共和国 特別活動を中心とした 日本式教育モデル発展・普及プロジェクト



ニュースレター第7号

第7号では、公立学校で始まったTokkatsuの 様子を紹介します。手探りの中スタートした学級 会の様子やTokkatsuに期待される姿などをイン タビューしてきました。

さらに本号では、小学校の高学年を日本で過ごし、そこで学級会や掃除を経験したことがあるエジプト人プロジェクトスタッフへのインタビューも掲載しています。ぜひご覧ください。

第7号の主な記事

公立学校での Tokkatsu

エジプト日本学校 紹介

プロジェクトスタッフへの インタビュー

エジプトでは、日本の学習指導要領に定められた「特別活動」を参照し、現地の制度や習慣に沿い現地適合化しています。そこで、本紙では、エジプトのものを「Tokkatsu」として表します。



公立学校でのTokkatsu

本年度より本格的に公立学校でTokkatsuが始まりました。公立学校では、エジプト日本学校で実施しているTokkatsuの中から、学級会、学級指導、日直、そうじ、学校行事が実施されます。 首都カイロの北へ車で1時間の地域にある公立学校でのTokkatsuの様子をご紹介します。

学級会



4年生の学級会では、教室のラマダンの飾りについて話し合っていました。先生が、学級会の途中で目標を確認しながら進めたり、学級会が終わった後に「大きい声で意見を言えましたね。」など良い点を振り返ったりと、慣れない子どもたちのサポートを行っていました。

学級指導



先生が子どもの手が粉ジュースで汚れている写真を見せ「これは何で汚れているのかな?」と始まった学級指導。テーマは「健康的な食事の指導」でした。実際の健康指導は、地域の保健・人口省の職員を講師として招き行っていました。Tokkatsuが導入され間もないですが、エジプト日本学校では、まだ少ない地域との連携で進められていました。

掃除



1クラスの人数が50人前後と多いため、掃除をグループ毎の当番制にし、工夫して行っていました。当番の子どもが教室を回ってごみを集め、校庭にあるごみ箱に持っていきます。

プロジェクトではエジプト全国の小学校でTokkatsuが実践されるよう支援しています。公立学校でもTokkatsuが定着していくよう、公立学校の中からモデルとなる学校を選定し、追加的な研修やエジプト人のTokkatsu指導員による訪問指導を行っています。最初の年は30校を中心に支援し、プロジェクト終了までにモデル校を100校まで増やす予定です。

公立学校で Tokkatsuの実践について 聞いてみました。





校長先生

今年度のTokkatsuの研修には、学校から4回参加しました。 その後、校内での研修も行っています。

Tokkatsuの実践で、子どもたちは自分自身で道徳的な行 動を始めて、家族や周りの環境にも影響を与え始めるよう になりました。そして、衛生や清潔面でも学校は大きく変 わったと思います。

4年生の学級会を担当していたアラビア語の先生

Tokkatsuの研修に参加しました。教師としてこの内容は、 私たち(エジプト人)が到達するべきレベルであり目標 だと思いました。

今年度から始まって、チャレンジだと感じるのは、年齢 の高い子どもの行動を変えるのが、低学年の子どもと比 べて難しいということです。行動を変えるのは時間がか かります。

例えばトイレの掃除は難しいですが、出来ることから始 めています。この学校では、保護者や地域の協力が得ら

内気な子どもが、日直でリーダーを経験することでリー ダーシップをとれるようになりました。



参加型の授業を行っていたアラビア語の先生



Tokkatsuは、研修を受けてきた先生から、 習いました。写真など見せながら説明して くれました。

Tokkatsuを実践することで、子どもたちが 責任を持てるようになりました。内向的な 性格だった子どもたちが、日直の順番が来 るのを楽しみに待っているのです。

今まで行った学級会では、みんなが使える 文房具の箱を設置することを決めました。 文房具を忘れた子や、誰でも使える文房具 です。このように、子どもたちは先生の私 を助けてくれます。そして色々提案してく れるんです。

学級会で、自分の意見を発言すると、自分を 表現しているようで、自分に価値があるよう に感じます。

他の人の意見が異なるときは、友達の意見を 尊重します。

日直でリーダーになるときはみんなの意見を聞き、意見に対するコメントも聞きます。誰もが自分の意見を言い、それを尊重するのが良いことだと思います。(6年生)







学級会で、みんなの意見を聞く のが好きです。

教室がきれいに保たれるのも嬉 しいです。 (4年生) 学級会で、みんなで遊ぶゲームを 決めました。サッカーやテニス、 椅子取りゲームなどの意見が出た のですが、みんなが参加できるよ うに、椅子取りゲームのルールを 変えました。 (6年生)



Tokkatsu指導員からみた 公立学校のTokkatsu

エジプト日本学校と公立学校の違いは、システムや設備自体そうですが、継続的な指導やフォローする回数が大きく異なることだと思います。また、エジプト日本学校と比べて、公立学校は一クラスの人数が非常に多いです。地域や保護者もまだ、Tokkatsuの実施に慣れていません。しかし、一方で彼らのサポートは大変重要だと考えます。地域の教育委員会や地域のコミュニティーとの協働や支援を受けながら、近隣のエジプト日本学校との交流やイベント、研究会などの実施が重要です。今後Tokkatsuを推進していく上でこのような連携が重要になってくると思います。



公立学校で始まったTokkatsuは、一クラスの人数が多いことや保護者の掃除への理解など、Tokkatsuを実践していく上で難しい点もありますが、地域行政との連携を始めとした、地域に根差した学校ならではの強みも感じられました。今後の公立学校でのTokkatsuの普及が楽しみです。



エジプト日本学校紹介 vol.2

2024年5月現在、エジプト全土に51校 開校しているエジプト日本学校。各校の 紹介と合わせて、学校ごとの取り組みな どを紹介します。

スノウラス校





スノウラス校は、首都カイロの隣県ファイユーム県にある学校です。2017年に開校し、幼稚園と小学校合わせて142人の子どもたちが学んでいます。学校の周辺は田園と湖に囲まれており、農業や漁業が盛んな地域です。

現在スノウラス校の教員は、 Tokkatsuの 形式や手順だけではなく理念を理解しようと以前に増して頑張っており、公立学校でTokkatsuが始まったことを受け、地域や保護者の理解や連携が深まっている そうです。



ラマダン期間中の寄付活動

寄付活動実施の経緯と目的

この取り組みは、3年生の児童が、保護者にラマダン期間中に不足している砂糖や油などの食料品を、貧しい家庭に寄付したいと提案したことから始まりました。学校は、この活動を行う上で、3つの効果を期待しました。

- 1. 子どもの心にある善と愛の心を強固にする
- 2. 他者への思いやりを育む
- 3. 他人のために働くことができ、協調性をもった思慮深い子どもを 育てる

寄付活動の実践

提案を受け学校では、まず、子どもたちに自宅からラマダンに不可欠な食料品を学校に持ち寄ってもらうことから始めました。3月10日には保護者が学校に集まり、集めた物資を子どもたちと一緒にプラスチックバックに梱包しました。

1回目の寄付活動が終わった後、子どもたちから衣服や靴を寄付することが提案され、継続することになりました。家で洗濯などが行われた衣服を、子どもたちは、学校でアイロンがけしきれいに整えました。

3月31日には、再度保護者が学校に集まり、保護者、子ども、教師と一緒に梱包しました。これらの準備したグッズは、地域で最も困窮しているグループに、保護者によって届けられました。

子どもたちがこのような慈善活動に参加することで、地域社会への参画や、他者へ真心をもって接すること、困っている人を助けることなど、当初期待した目的が達成できたと思います。

(エジプト日本学校スノウラス校 校長先生)



保護者が集めた衣服を点検



集めた衣服を袋につめている



持ってきた衣服を アイロンがけしている様子





日本の小学校での写真。左がメンナさん。

ーメンナさんは、日本で学級会や日直などの特活を経 験しどのような感想を持ちましたか?印象に残ってい るエピソードがあれば教えてください。

日本とエジプトの学校の違いで驚いたのは、掃除 の習慣です。最初は両親が絶対ダメとすごく反対 しました。先生は、これはみんなやってる活動な んですと説明してくれましたが、私も最初はやり たくなかったです。でも教室でみんなが掃除をし ている姿を見るうちに楽しそうにやっていて、参 加したいなと思うようになり掃除するようになり ました。

学級会では、私が議題になったことがあります。 友達が、日本語が話せない私をいじめるクラスメ イトを見て「それは間違っている」と、みんなで 話あうことを提案してくれたんです。その頃はま だ日本語が少ししか話せなかったので、気持ちを 代わりに話してくれる友達がいて、学級会の後に は、みんなもやさしく接してくれるようになって すごく嬉しかったです。

一番覚えているのは、みんなが学級会を行ってい るのを見て、私も意見を発表したい!参加したい と思って、日本語を勉強し、みんなと一緒に意見 を出せるように頑張ったことです。初めて学級会 で、日本語で意見を言った日のことは今でもすご く良く覚えています。

一言葉がわからなくても、学級会は楽しそうで参加し たいと感じたのですね。メンナさんが日本の特活から 影響を受けたと思う点があったら教えてください。

責任をもって行動できることです。仕事で間 違った時も、謝ることができます。ちゃんと責 任を持っているからです。

ー謝ることは、エジプトの文化では少し難しいのですね。

そうですね。だから日本の謝る文化はすごく良いと 思います。仕事もすごくやりやすくなると思います。 私は、日本から戻って20年以上経ちますが、掃除の習 慣は続きました。エジプトでは結婚して家を出るまで は、家事は全て母親がやります。でも私は自分の部屋 の掃除をやったり、洗濯の担当になったりしていまし た。友達からもメンナの生活は他の人と違うね、と言 われたこともありますが、日本の特活のおかげかな、 と思っています。

-現在プロジェクトで働いていて、エジプトでTokkatsu が広がることで、どういった効果を期待しますか?

Tokkatsuは、日直や学級会、運動会、何でも全員が 平等に参加します。私が子どもの頃は特に、エジプ トの学校では全て先生が決めていたので、特別な子 どもたちだけではなく全員平等に参加すること、自 分たちで決めたことを実践する経験ができることは 大きいです。

子どもたちがTokkatsuを経験することで、エジプト 人みんなの振る舞いが変わると思います。例えば、 私は散歩が好きなのですが、道にゴミが捨ててある のが嫌いです。でも、小学校から掃除の習慣があれ ば道のゴミがなくなりきれいになると思いますし、 学級会で反対意見を聞くことや相談する経験があれ ば、相手の意見を取り入れチームワークで働くのが 苦手なエジプト人が変わると思います。まだエジプ トのTokkatsuは新しい活動で、一部の学校での特別 なことですが、エジプトの学校全員がTokkatsuを行 い、日本のように習慣になり、色々なことが変わっ ていくことを期待します。

- 「学級会に参加したい!掃除も楽しそう」という気持 ちがエジプトの子どもたちに芽生えるように、魅力的な Tokkatsu実践のサポートをしていくことが大切と感じら れるお話しが聞けました。メンナさんありがとうござい ました。

第7号ニュースレターでは、公立学校ではじまったTokkatsuの様子をご紹介しま した。地域とのつながりが強い公立学校ならではのTokkatsuの実践が期待され ます。次号でも、エジプトのTokkatsuをお届けしていきます。

問い合わせ先

JICA技術協力プロジェクトチーム holistic edu@padeco.co.jp